

●情報を共有しよう

なぜ？

1. 事故のあった場所やその時の行動等を把握することで、危険回避ができます。
2. 情報を共有することにより危険予知ができ、事故を減らすことができます。

ヒヤリ、事故

1. ぬかるみに機械がはまった。
2. 受託作業で行ったほ場で、測量杭があることを知らず、刈払機の刃を当ててしまいキックバックし足を切りそうになった。

そこで…

対策ポイント

1. 事故やヒヤリハットを共有し、互いの注意喚起、危険予知に役立っています。
2. 危険な場所（路肩が崩れやすい場所、見通しの悪い場所、ぬかるみの発生しやすい場所等）の情報を共有します。
3. 離れたほ場への移動が多い場合は、地域の危険マップを作成・参考し、危険の周知と回避を図ります。
4. 作業委託する場合は、測量杭の位置等、危険と思われるものの場所や、そこで過去に起こった事故・ヒヤリハットも作業者へ提供します。
あわせて、目印も立てておきます。

さらに！

追加のヒント

1. 季節や時間帯によって状況が変わることがあるため、この点も含めて危険を把握・共有します。
2. 災害の碑や地域の伝承も過去の貴重な情報を伝えています。
集中豪雨や地震等の天災に備え、意識するようにします。